

# 北九州

# 毎日・北九州フォーラム

## 「山本作兵衛」と福岡県立大

福岡県筑豊の炭坑絵師、山本作兵衛(1892～1984年)の絵画や日記など697点が国内で初めて、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の世界記憶遺産に登録されて約半年。作兵衛が晩年を過ごした同県田川市で登録資料70点を保管する福岡県立大(名和田新学長)は約10年前に日記を発掘するなど、快挙の地下を作った。作兵衛を教材に地域との関わりを提言する県立大の活動を紹介する。

【荒木俊雄】

## 貴重な教材講座に活用

### 「記念館」来春開設市民に開放へ

田川市石炭・歴史博物館。記憶遺産の登録資料627点を有し、平日は20～30人だった入館者が今では1000人を超す日もある。学生16人を伴って訪れた同大人間社会学部の小松啓子教授(保健学)は学生たちに向かつて尋ねた。

「作兵衛さんの絵を見た感想は？」

選択講座「社会貢献論演習」(毎週火曜、90分×2時限)での取り組み。1年生を対象に、介護や

教育など各分野でのボランティア経験者の話を聞いたり、関連施設を見学するなどして、学生の社会参画力を高めるのが狙いだ。

08年度の学内調査によると、ボランティア経験

のある学生は約7割にのぼった。未経験のうち9割が「機会があれば参加したい」と回答。これを受けて昨年度、小松教授らが前期に社会貢献論の座学、後期に演習を開講

も授業で炭鉱関連施設な

した。

担当教員5人のうち、教材に作兵衛を推したのが人間社会学部長の森山浩一教授(教育学)だ。

「作兵衛はかつてアジア一の採炭量を誇った筑豊の炭鉱で働き、資料はその証し。絵画には坑内事故やリンチなど負の描写

訪れるようになり、県立

一人だ。02年3月、作兵衛が最後に住み解体直前だった炭鉱住宅を遺族の依頼で調査した際、1915(大正4)年から亡くなる直前までの日記・手帳類66冊を発見。02年4月には「炭鉱の歴史を後世に伝えよう」と、学生や住民と「山本作兵衛さんを読む会」を設立した。

くせ字や専門用語の多い日記類の解説を進め、今年6月までに解説資料集

「山本作兵衛 日記・手帳」10巻を刊行している。また、同大は来春3月、作兵衛記念館(仮称)を開設し、市民にも開放することになっている。

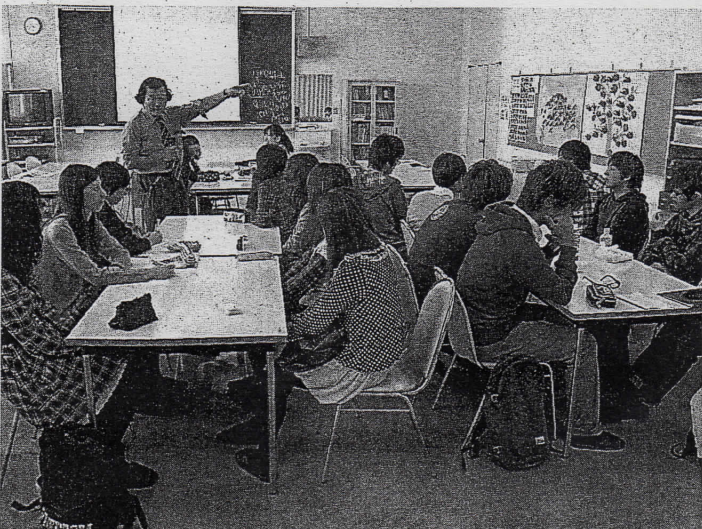
森山教授は「死後有名になった宮沢賢治や金子みすゞのように、作兵衛も学習対象として見つめる必要がある。筑豊は作兵衛抜きでは語れず、彼の歴史は地元の貴重な教材」と話す。

## 新 教育の森

九州・山口

福岡県立大

67年開学の県社会保育短大(保育科、社会福祉科)が前身。92年に県立大となり、06年に公立大学法人化された。人間社会学部、看護学部の2学部4学科と大学院人間社会学研究科の福祉系総合大学。学生数約1100人。「社会貢献・ボランティア支援センター」「不登校・ひきこもりサポートセンター」など四つのセンターからなる付属研究所も持つ。



スライドなどを使い、作兵衛について解説する森山教授